

南北大東島を旅して (1) —南大東島 牧 洋一郎*

Take a trip to Kita and Minami Daito-Jima (1) —Minami Daito-Jima

MAKI Yoichiro

要 約

南大東島の経済は、砂糖キビ農業と製糖業に大きく依存している。そこで、この島の現地調査を踏まえて、島における砂糖キビ農業の重要性を考察することにした。なお、この島は砂糖キビ農業と共に独自の文化を持つ島であり、更なる島の発展のために他産業との連携によって、島の向上を模索することの必要性を論述した。

キーワード：砂糖キビ農業、離島、八丈島の文化、沖縄各地の文化、隆起珊瑚礁の島

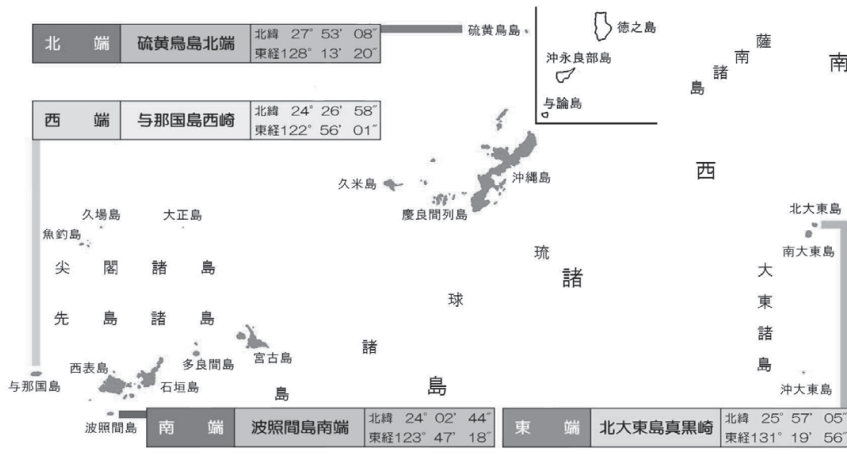
— はじめに

平成28（2016）年7月14日～17日の短い日程ではあったが、当大学名誉教授の組原洋氏を始め4名で南北大東島（うふあがりじま）を旅した。共同調査による旅ではあったが、その調査目的は、児童文学、社会福祉、農業問題とそれぞれに異なるもので、筆者は島の生命と謳われる砂糖キビ農業を主に調査の対象とした（南大東島での滞在は14日～16日）。

南北大東島の経済は、農業・漁業・観光産業に依存しており、中でも特に、砂糖キビ農業は重要な基礎的産業である¹。つまり、砂糖キビ農業は、沖縄県の経済振興のために必須の作目として政策的に位置づけられてきたものでもあり、本県では、離島部の経済が砂糖キビ農業と製糖業に対して大きく依存している。そこで、本稿ではまず南大東島の砂糖キビ農業を中心に一現地調査を基に沖縄関係の資料や村勢要覧等を踏まえて一考察することにした。なお、隣島の北大東島の砂糖キビ農業等については、「南北大東島を旅して(2)—北大東島」と題して別稿にていずれ論述することにした。

* 沖縄大学地域研究所特別研究員 youi_maki@yahoo.co.jp

沖縄県の東西南北端点の経度緯度



資料：国土地理院、沖縄県土地対策課

図1 沖縄県の略図（平成28年沖縄県勢要覧1頁）

二 島の概要²

南大東島（沖縄県島尻郡南大東村、一島一村）は北緯25度・東経131度の地点に位置し、北大東島、沖大東島と共に大東諸島を形成し、沖縄県内で6番目に面積の大きい島である。この島は沖縄本島の東海上約360キロメートルの海域に浮かぶ面積約30.5平方キロメートルの亜熱帯海洋性気候の島で、最高標高は75メートルである。それから、この島の気温と降水量は、年平均気温23.3度、年降水量1,591.7mmである³。

そして、この島は隆起珊瑚礁の島で地下には多くの鍾乳洞があり、「地底湖」を見ることのできる島でもある。島内は、在所、旧東、新東、南、北および池之沢の六つの字（区）に分かれており、市街地を形成しているのは字在所で、村役場の所在地は字南である。

「島の砂糖か 砂糖の島か 南大東 キビの波♪・・・」（南大東音頭）と唄われている通り、この島は農業を中心とした島で、特に砂糖キビ農業の盛んな島である。島民の高齢化は進行

表1 字別人口及び世帯数（平成27年4月末現在） 単位：人・戸

字	男	女	計	世帯数
南	85	65	150	79
旧東	76	61	137	56
新東	27	17	44	24
北	58	36	94	52
池之沢	113	76	189	101
在所	371	292	663	350
合計	730	547	1,277	662

（平成28年南大東村勢要覧40頁抜粋）

しているが、現在の人口は横ばい状態にある。島の人口は約1,300名で、移住元は八丈島と沖縄本島が多く見られる。そして、この南大東村で15歳から18歳の年齢層が極めて少ないのは、島に高校がなく、殆ど彼らが高校進学のため沖縄本島などへ転出することによるものである。

三 島の歴史⁴

明治33(1900)年の八丈島⁵からの移住によって一八丈島出身の開拓王・玉置半右衛門(1838～1910年)を中心に一原生林が切り開かれ入植が始まり、その後沖縄各地からの入植も続き、八丈島の文化と沖縄各地の文化が融合した島となっている。周囲を断崖絶壁に囲まれたこの島に入植することは容易なことではなく、ましてや開拓することなどは至難のわざであったと推測される。

戦前は、特例として町村制は施行されず、製糖会社に島の自治が委ねられていた。かつての島民は、一部の管理的役職者を除けば、全て製糖会社に砂糖キビを納める小作農であり、島への渡航手段から商店・学校・郵便局等にいたるまで全て製糖会社の支配(社有)であった。また、開拓以来、八丈島系住民が沖縄系住民を使役する状態が続いていたが、戦後解消されたとのことである。

また、第二次大戦についての住民の戦争被害意識は、沖縄本島に比べて極めて軽いという感じでもある。そして、この島での一戦時中の一兵隊経験者らによれば局地戦では日本軍が勝利していた⁶ともいう。その後、昭和21(1946)年のアメリカ軍政開始により、村制が施行され、南大東村となった。

それから、戦後の米高等弁務官ポール・W・キャラウェイ(1905～1985年)についてであるが、彼は「沖縄が独立しないかぎり、沖縄住民による自治政治は神話である」⁷と主張し、沖縄の直接統治を行なった人物であり、沖縄本島では悪役と評されるが、この地では農地改革を推進し貢献したため、島民の所有権獲得に感謝され⁸、胸像がふれあい広場に建立されている。つまり、開拓以来、製糖会社は島民(農民)の土地所有権を認めてこなかったため、戦後、大日本精糖(株)との間に土地問題が起こり、昭和26(1951)年から始まった所有権獲得の闘争は、「土地を愛する者に土地を与えよ」をスローガンに、足掛け13年の歳月を掛けて、同39(1964)年に農民側が勝利した。このことによって、島内の耕作地の所有者が大日本精糖(株)ではなく、島民であることが最終的に確認された。その際、キャラウェイ(高等弁務官の任期は、1961～1964年)の果たした役割一つつまり所有権は農民のものと裁断したこと一は大きかったのである。

そして、昭和47(1972)年5月のアメリカから日本への沖縄施政権返還に伴い、日本領に復帰した。

四 島の文化と生活

南大東島には、産土神^{うぶすながみ}を祀っている大東神社と火の神（＝台所の神）を祀っている秋葉神社（共に八丈島系）があるが、八丈島と沖縄の文化の融合として、大東神社の入り口には、シーサーの石造が置かれている。また、この島には、石敢當^{いしがんとう}、大東太鼓、御輿など沖縄及び八丈島の有形文化の双方が見られるが、祭りや行事⁹にも、シーミー（清明）祭、大東エイサー、観音祭、豊年祭等が見られ、沖縄と八丈島の双方の影響を基礎としているものである。

毎年9月に行なわれる村（島）最大の祭りである豊年祭の実行委員長は村長が務めるが、このことは地域産業のみならず地域のすべてが発展せねばならないということを見せるものである。また近年、この祭り際には、八丈島から町長も招待されるなど、八丈島との親密な交流も行なわれている¹⁰。なお、この祭りには、沖縄で南北大東島以外には見られない神輿や山車、江戸相撲が登場し、同時に、沖縄角力や琉球舞踊などの演芸もあり、移住者が出身地の文化を持ち込みながら、それを南大東島の祭りとして鞠育^{きくいく}してきたその姿と評される¹¹ものである。また、この豊年祭は、この島が沖縄本島から遠く離れた海域にあり、なおかつ台風も多い島であるため、一年間平穏に暮らせるように、という願いが込められた島最大の行事であるという。それから、沖縄特有の血縁集団の共同墓（門中墓^{ムンチュウ}）は、この島には見られない。

この島は戦後に至るまで、(株)玉置商会から東洋製糖株へ、そして大日本製糖株と製糖会社による民間統治の長い島でもあった。現在、製糖は、大東糖業株によって分蜜糖（砂糖の結晶から糖蜜を分離した砂糖）としての製品出荷が行なわれている。また、大正6（1917）年から昭和58（1983）年9月まで、鉄道が敷かれ砂糖キビ運搬列車（シュガートレイン）が運行されていたが、時代の変化（トラック利用等の普及）により廃止された¹²。

それから、島のいたるところにドリーネ（石灰岩が溶けて生じた窪地）があり、天水が溜って池を形成し島民の生活を支えてきた。かつて島民らは用水については天水に頼っていたが、現在は大型造水機・海水淡水化施設により水を確保している。そして、石垣には珊瑚石を利用しており、また生活用材にはアダンの繊維（草履等）やピロウの木（燃料や建築用材）を利用して¹³いたが、竹利用は殆ど見られない¹⁴。また、この島には砂浜がなく砂の採取ができないため、建築資材は高いとのことである。

五 現在の島の産業

1. 農業

南大東島は、明治33（1900）年の開拓開始より一世紀を経た今日、ピロウなどの原生林が生い茂る土地から砂糖キビ畑が広がる砂糖の島へと大きな変貌を遂げている。現在、沖縄県の砂糖キビ農業は、農家の高齢化に伴い縮小してきている中、南北大東島や宮古島等では、極めて依存度が高い現状である¹⁵。つまり、本県離島部の経済が砂糖キビ農業と製糖業に対して極めて強く依存していること、このことは代替的な作目があまり存在しえないと考えていることに拠るものであろう。

明治期の開拓から現在に至るまで、砂糖キビ農業と製糖がこの島の基幹産業であり、砂糖キビ畑が島面積の大半を占め、島民らはこのことを「砂糖キビの島」と自負している。かつてはこの島の土地自体が肥料（海鳥の糞）を含んでおり、肥料を施さずとも砂糖キビは自然に育っていたが、現在は有機物が少なくなり土壌が悪くなっており、化学肥料などを撒いている。なお、ハーベスター（収穫機械）による刈り取りなど、砂糖キビ農業の大型化が進んでいる島である。砂糖キビは風害により倒れ、また潮害により葉が黄色くなるが、再び立ち上がるという作物でもある¹⁶。また現在では、独自の農場（93ヘクタール）を有する農業のサポート会社・アグリサポート南大東株が、農作業を行ない農家の人手不足を補っている。

この島では、砂糖キビが農作物の90%を占めるが（砂糖キビ生産者250戸）、その他にかぼちゃ、さつまいも、里芋等の農業も盛んであり、そして、かぼちゃ（かぼちゃ名：エビス）は首都圏や関西圏にて高値で取引される¹⁷とのことである。なお、島バナナ、パイナップル、パパイヤ等の果物もよく育つ島である。また、畜産は戦前戦後盛んであったが、役用牛馬は農業機械化に伴い毎年減少し、最近まで農家の副業として肉用牛として畜産が行なわれていた。

表2 砂糖キビ生産量字別実績

字	収穫面積 (ha)	収 量 (kg)	反 収 (kg)
在所	13,643	5,446,730	3,992
池之沢	24,228	9,600,704	3,963
北	26,879	9,348,570	3,478
新東	16,015	5,909,186	3,690
旧東	11,523	4,448,279	3,860
南	22,114	7,484,792	3,385
合計	114,402	42,238,261	22,368

(村勢要覧48頁抜粋)

表3 かぼちゃ生産の推移

年次	面積 (ha)	反 収 (kg /ha)	収 量 (kg)	金 額 (千円)
平成 22 年	8.9	1,048	93,490	29,972
平成 23 年	13.5	783	105,850	53,118
平成 24 年	24.1	728	176,060	61,257
平成 25 年	32.6	744	242,660	96,257
平成 26 年	39.5	720	284,370	118,793

(村勢要覧48頁抜粋)

表4 畜産飼養頭羽数

	肉用牛（頭）	山羊（頭）	採卵鶏（羽）
平成22年	892	99	508
平成23年	783	99	500
平成24年	283	79	500
平成25年	1	70	800
平成26年	0	74	700

(村勢要覧48頁抜粋)

2. 水産業

南大東島の水産業は大規模の産業ではないが、島の周辺海域は、サワラ、マグロ、黒尻カマス（ナワキリ）、ソデイカ等がよく獲れる好漁場である。南大東村漁業組合（漁業経営体数約20）¹⁸を中心に漁撈活動が行なわれており、サワラやマグロなどの漁獲高は豊富で、それらの魚類は島の名産として大東寿司の食材などにも使われている。また、豊年祭では漁師も共に祝い、マグロ一本が境内に奉納されるとのことである¹⁹。

この島の近海は、豊かな漁場ではあるが、小型ポートによる漁獲で村内需要と若干の村外出荷が見られる小規模漁業経営を与儀なくされていた。しかし、平成に入って漁港も整備され、漁業の発展にも取り組んでいる。近年は、県内の大型スーパーへも出荷されるようになった。つまり、平成元（1989）年度から着工した彫り込み式（陸地を開削する工法）の南大東漁港は同12（2000）年度に一部開港となり、本村漁業振興開発と近海で操業する漁船の避難や寄港及び前進基地となって、将来、大規模な水産開発が期待されている。

また、村が一体となって一第四次南大東村総合計画の目標の一つとして一漁業に関して、「自然の恵みを資源に開拓魂とともに産業が生きる島」をキャッチフレーズに、販路拡大や加工品の増加等による市場の開拓を行なうとともに、漂着物の回収等、海を守る活動に取り組んでいる²⁰ことは、自然環境保全との調和という視点から、重視すべき事項である。

表5 漁獲高の推移

	漁獲高（kg）	単価（kg/円）	金額（千円）
平成22年	126,432	601	75,960
平成23年	93,932	567	53,264
平成24年	92,324	451	41,269
平成25年	82,823	525	43,496
平成26年	104,610	537	56,175

(村勢要覧48頁抜粋)

3. 観光産業

島の女性ら数人が中心となり、地域農産物の素材・かぼちゃを原料とした羊羹の製造販売に力を注いでいることが見受けられる²¹。なお、この島の行政は観光振興や地域の活性化の

起爆剤として、かつて島の各字を繋いでいたシュガートレイン「復活夢実現事業の推進」を掲げているが、実現するには、困難な問題（保線管理やコスト高の問題等）²²もあり、この点は克服されねばならぬ課題である。また、シージャーキー（マグロのミリン干し）、大東寿司、ラム酒、大東そばなどの特産品（島独自の食文化）の製造販売に取り組んでいることは、多いに期待すべきことである。

観光産業を増やす目的の一つは、失業を減らし、所得を拡大することであるが、南大東島も同じ目的から、仕事を確保し、所得の拡大効果を見込まねばならないのである²³。そのことについて、如何なることが必要であるか—島民が丸となって—徹底的な研究が必要とされよう。要するに、海と山(林)で遊べて、滞在できる社会環境を更に模索する必要がある。そして、砂糖キビ農業の強化や彫り込み式漁港のより一層の整備・充実による漁業の向上によって、そこから事業を波及させ育成していくことが、良好な観光開発の基礎であり、雇用と定住促進の強化につながるといえよう。

六 今後の課題と展望

1. 農業の今後

南大東島では一戸当たりの経営規模が約8ヘクタールで、経営耕地面積が広く、わが国では例の少ない—大型機械化—貫作業体系による—大規模経営が確立している。今後はより一層の農業基盤の整備・土づくり・病虫害防除等の推進、生産性の向上を図ることが重要であり、期待される²⁴。これからも「砂糖は島を守り、島は国土を守る」のスローガンに注目し、サステナブルな砂糖キビ農業に期待したい。

この島では、砂糖キビはタンカル（炭酸カルシウム）を撒かないと根が這っていかず、島では今、カボチャも栽培されているが、カボチャを植えて初めて、土地のやせ具合が分かるという²⁵。砂糖キビは代替的な作物に乏しいため、甘しゃ（砂糖キビ）糖業はこの島に限らず、南西諸島の経済の振興のために必須の作目として位置付けられているが、この島で農家所得向上として砂糖キビとカボチャの輪作を計画実行していることは、島民にとって最も重要なことではなかろうか。なお、最近ではカボチャを作る農家が多くなっている。

また、隆起珊瑚礁の島のため、池の水が塩分を含んでおり、表面水は僅かの淡水で、殆ど使用できない状況である。なお、梅雨時の長雨のため、砂糖キビは糖度が低いというが、優良苗助成と肥培管理の進展が更に望まれるところである。それから、干ばつ対策・土づくり・高性能機械の導入・病虫害対策など取り組まねばならぬ問題も多々あるが、輸送コストの問題等、離島が直面する課題について、沖縄振興特別措置法²⁶の適用（指定離島）を念頭に置き考えていくべきであろう。

2. 文化の向上と観光産業のこれから

南大東島では、農業・漁業と連携した観光産業を必要としようが、観光客受け入れに制約

が有るとのことである。つまり、島の地形が断崖絶壁のため上陸が不便であり、また定期船が岸壁に接岸できず、乗船客をコンテナに乗せ換えそれをクレーンで吊上げるシステムとなっている。そのような地形上の不利な条件を除くためにも、彫り込み式港の築港研究を多に必要としよう。それから、近年、航空機の大型化にもより、観光客が容易に訪れることが可能になり、豊かな自然を生かした観光地としても注目されるようになった。よって、島の観光振興として、自然保護と併せて自然文化（天然記念物）すなわち豊かな自然を活かした島の更なる振興に期待するところである。

そして、この島では、この地域の文化・歴史を学ぶ上で、図書施設が不足していることが見受けられる。図書施設としては、小中学校の図書室と移動図書館によるが、更に教育の発展充実という点から、図書施設の拡充（固定図書館の設置）が望まれる。つまり、図書施設は社会教育文化についての発展に欠かせないものであり、その組織・機能・規模を新たな視点から捉え直す必要がある。併せて、島民が慣れ住んだこの地を放棄しないためにも、子育て支援システムや離島医療施設の充実が更に望まれる。

それから、この島は行政上沖縄県に属しながらも、八丈島の文化、沖縄県各地の文化そして製糖会社がもたらした本土の風習が混交しており、沖縄県内の他の地域（北大東島を除いて）に見られない独自の社会・文化を作り上げているが、この島独自の文化（豊年祭など）をより一層島外に向けて発信することが必要ではなかろうか。

3. TPPの発効問題²⁷

南大東島にとって、砂糖キビ産業は島の基幹産業と位置づけられ²⁸島の生命であるため、TPP（環太平洋経済連携協定）との関係を見ておく必要がある。

国産原料で砂糖を製造するとコストが高くなるため、我が国では助成金によって国内での砂糖生産を維持している。我が国では、精製糖の関税率を高く設定しているため精製糖の輸入は殆どなく、粗糖の輸入に対して調整金を徴収し、それを財源として生産者・製糖工場に対して交付金（甘味資源作物交付金、国内産糖交付金）を支給し、砂糖の安定供給を実現している²⁹。国産原料による砂糖生産量は655千トンで、砂糖需要量全体（2,107千トン）の3割を占めている（10年度）。また、ここ数年、国産糖の卸売価格は1キロあたり170円前後なのに対し、豪州産は50円で3倍以上の開きがあるが、それでもやってこられたのは、328%まで設定できる高い関税と、輸入品を買う国内の製糖メーカーから年間500億円の調整金を取り、価格差を埋めているからである。

我が国での砂糖の原料は8割弱が北海道のテンサイで、残り2割強が黒糖で鹿児島県（奄美諸島、種子島）と沖縄県で生産されている。重要5項目（関税撤廃の対象外）の中に甘味資源として含まれているが、TPP発効となれば、砂糖きび農家は生き残りが厳しい状況にあることは北海道、鹿児島（奄美諸島、種子島）及び沖縄に限らず一殆どの国民が認識しているところである。つまり、「国内産糖が海外からの安価な農産物との競争に晒されれば、

生産農家ひいては地域経済が甚大な影響を被る」との予測は念頭に置かねばならないことである。そうではあるが、南大東島の現状は、TPP発効の危機感が島全体に強くある中、そのことに対して、島が一丸となって砂糖キビ農業を守り抜く姿勢が窺われる。

そして現在、この島で、砂糖キビを原料とするラム酒の製造販売事業（株グレイスラム、2004年3月設立）³⁰も行なわれているが、このことが島の産業発展の一要素と期待されており、この事業の発展に多いに期待したいものである。

七 結 び

我が国の農業は、TPP発効をにらむ差し迫った社会状況にある³¹が、南大東島の砂糖キビは、島民の暮らしを支え島に富をもたらしたものである。したがって、この島は砂糖キビによる「宝の島」と位置付けられるが、この宝の島の今後を、どう発展させていくか、つまり台風等の災害に強い砂糖キビの品種改良は当然のこととして、砂糖キビ農業を如何に守っていくか、開拓開始時の原点に立ち戻って開拓者精神を踏まえて更に考えていく必要がある。この島は開拓者精神の脈々と宿る島なのである。また、この島では、砂糖キビ農業が島の経営を動かす最も基本的な産業である故、砂糖キビの安定生産による農業振興施策を図ることが重要な課題である。つまり、島の繁栄の基礎は、農家の生産性向上にあるのである。

この島は隣島の北大東島と共に、八丈島、沖縄そして製糖会社をもたらした文化が融合する独自の文化を持つ島である。更なる島の発展つまり砂糖キビの波とウフアガリチャンプルー（混ぜ合わせ）文化の進展のためにも、「島とは何か」「島の抱える問題」を農学、農業経済学及び農業法学の視点のみならず民俗学等との連携した視点からもより一層の相互研究が望まれよう。

注

- 1 増井好男・小野甲二「離島の農地構造問題と農業振興施策」『土地と農業』第40号（全国農地保有合理化協会、2010年）195～205頁参照。
- 2 『平成28年南大東村勢要覧』（南大東村、2016年）、『平成28年沖縄県勢要覧』（沖縄県企画部統計課、2016年）、<http://www.vill.minamidaito.okinawa.jp/industry.htm>（2016年9月23日）、等参照。
- 3 <https://wether.time-j.net/Climate/Chart/minamidaito>（2016年10月21日）、南大東島の気候（気温と降水量、統計期間：1981～2010年）
- 4 前掲・注2）の村勢要覧11～12頁、土屋久「島の精神文化誌・豊年祭とサトウキビ（前編）」『季刊しま』244号（日本離島センター、2016年）72～86頁、同（後編）同誌245号（同、2016年）88～101頁、等参照。
- 5 因みに、八丈島（東京都八丈島八丈町）は伊豆諸島の島（無人島となっている小八丈島を含む）で、東京の南方海上287キロメートルに位置し、面積約72平方キロメートル、人口約7,500人の島である。<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/gaiyo/gaiyou.html>（2016年10月20日）。

- 6 20数年前、筆者の父から聞いた話である。1944年～1945年の約2年間この島での戦地体験によるものである。
- 7 伊波勝雄『世替わりにみる沖縄の歴史』（むぎ社、2003年）328頁。
- 8 前掲・注4）土屋245号93～94頁。
- 9 北大東島では大東宮例祭等があり、そこでも八丈島系・沖縄系の文化が見られる。
- 10 前掲・注4）土屋244号81～82頁参照。
- 11 前掲・注4）土屋244号73頁参照。
- 12 前掲・注2）の村勢要覧15頁参照。
- 13 在住者H氏（82歳、男性）談。
- 14 極めて短期間の滞在だったため、ハウライチクなどの竹林を見つけられなかったが、いずれ再訪の機会を得て、竹林及び竹利用について民具学的視点から竹の果たした役割等を再調査したい。要するに、南九州が竹中心の文化圏であることとの比較研究を行ないたい。なお、この島の竹の生息については、清水善和「南大東島の自然—もう一つの大洋島の視点から—」『地域学研究』第16号（駒澤大学、2003年）14～15頁参照。
- 15 井上荘太郎「沖縄県におけるさとうきび作と製糖業の現状と課題」『農林水産政策研究』第12号（農林水産政策研究所、2006年）65～84頁。
- 16 在住者H氏談。
- 17 かぼちゃ農家Y氏談。
- 18 『27年度公共事業の事後評価書』（水産庁、2016年）。
- 19 前掲・注4）土屋244号82頁参照。
- 20 前掲・注2）の村勢要覧32頁参照。
- 21 南大東村農漁村生活研究会ぼっぱ屋の女性数名が集まって行なっている。在住者N氏(女性)談。
- 22 観光客数との関係で採算が採れないでは。在住者N氏（男性）談。
- 23 渡久地明『南大東村フォーラム～新たな産業の取り組みを検証する～レポート・現状と展望』（沖縄観光速報社、2005年）10頁参照。
- 24 筆者は、政府からの助成（糖調法）なくしても自立できる方向への仕組みづくりが、困難ではあるが必要である、と考える。
- 25 前掲・注4）土屋245号96頁参照。
- 26 平成14年3月31日法14号。青木康容「沖縄の振興計画と地域開発(4)『佛教大学社会学部論集』第54号（2012年）117～135頁。
- 27 牧洋一郎「琉球弧の島—奄美と沖縄を比較して」『地域研究』第14号（沖縄大学地域研究所、2014年）63～71頁。
- 28 前掲・注2）の村勢要覧31頁参照。
- 29 清水徹朗「奄美諸島のさとうきび生産と製糖業」『調査と情報』29号（農中総研、2012年）4頁、2011年2月6日付朝日新聞記事、等参照。

牧：南北大東島を旅して（1）—南大東島

30 <http://www.rum.co.jp/company/>（2016年10月6日）。

31 TPPと関連法が、2016年12月9日の参院本会議で可決され、承認、成立した。しかし、TPPの発効に不可欠な米国の参加は不透明である。トランプ次期大統領がTPP脱退の意向を変えていない。2016年12月18日付南日本新聞記事参照。

追記：2017年1月20日、第45代米大統領に、ドナルド・トランプ氏が就任したが、就任直後、TPPからの離脱を正式表面した。TPP参加12ヶ国の国内総生産（GDP）は世界全体の4割を占めるが、米国が抜けることで、TPPは発効できなくなる。